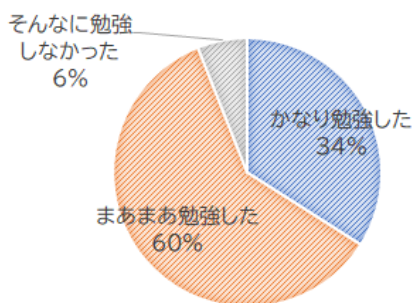




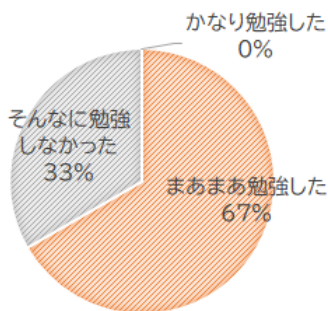
燦さんらん 爛

Q.今回、社会をどのくらい勉強しましたか？

ノートを持ち込んだ人



ノートを持ち込まなかった人



【前号の続きです】

次の質問は、「今回、社会をどのくらい勉強したか」です。これについては、ノートを持ち込んだ生徒と、持ち込まなかった生徒では、その傾向にかなり大きな違いが見られることが、左のグラフからもお分かりいただけると思います。

ノートを持ち込んだグループでは、「かなり」または「まあまあ」勉強した」と答えている生徒が合計94%と大部分を占めており、「そんなに勉強しなかった」と答えた人は6%とわずかでしたが、ノートを持ち込まなかったグループの中に「かなり」勉強した」と答えている生徒は全くおらず、「そんなに勉強しなかった」と答えている生徒がノートを持ち込んだグループの約5倍の33%もいるという結果になりました。ノートを持ち込んだ生徒は、テストで役に立つようなノートづくりを頑張ることで、「勉強した」という実感を得られたものと思います。

○ノートを持ち込んだ生徒の感想(主なもの)

- ・ケアレスミスがあったので直していきたいです。(1年)
- ・もっと勉強が必要だと思った。(1年) ・難しかったです。(1年)
- ・点数が低かったので、これからはもっと勉強量を増やしたいです。(1年)
- ・集中して取り組むことができました。(1年)
- ・ノートを持ち込んでくるだけでこんなに変わることが分かりました。(1年)
- ・ノートに頼ることも必要だけど、自分でもしっかり勉強することも大切だと思いました。(1年)
- ・地理をノートにまとめていなくて、地理があまりわからなかった。次はどちらも並行して頑張ろうと思った。(1年)
- ・地理のまとめ不足が個人的に目立ったので場所、理由、気候などを丁寧にまとめたい。(2年)
- ・テストの難易度がちょうどよかったです。(2年) ・漢字のミスが多かったので見直しをしっかりとしたい。(2年)
- ・山内先生のテストの出し方が分かったので勉強方法を変えてみようと思いました。(2年)
- ・惜しいミスや、しっかりと覚えていないところがあったので、もっと勉強したい。次は、ミスを少なくしたい。(2年)
- ・分かりやすく図などをかいていたら、良い点を取れた。(2年) ・雨温図がわからなかったので勉強したいです。(2年)
- ・大切な言葉を書いていただけだったので、もっとグラフを用いて勉強していけば点数アップにつながると思いました。(2年)
- ・思ったより難しかったので、次のテストではいい点数をとれるようにみっちり勉強していきたいです。(2年)
- ・少し難しい問題もあったけれど、ノート持ち込みによって分かったところもあったので、次もこの方式でやってほしいです。(2年)
- ・簡単でも、難しくもないのでとても勉強しがいがある。(2年) ・ノートを使っていなくてもまあまあ解ける。(2年)
- ・次はしっかり大切なところだけノートにまとめられるようにしたいです。(2年)
- ・資料の読み取りが難しかった。(3年) ・入試に似ていたので自学でも有効に使っていききたい。(3年)
- ・ノートに書いたことで自然と覚えられたから、テスト中に見ることが少なかったと思う。(3年)
- ・年表や要点をまとめていればよかった。(3年) ・年代順に並べるのが難しかった。(3年)
- ・問題が難しかったけれど、これからのテストや勉強に役立ちそうだと思った。(3年)
- ・ノートのまとめ方をもう少し工夫したいと思いました。(3年)
- ・もっとノートにいろんなことを書いて、点数を上げていきたいです。(3年)
- ・私は、今回漢字の間違いが多かった。ノートに年表などを書いておけばよかったと思った。(3年)
- ・ノートにまとめてテストに臨むと意外と覚えていて、ノートを見なくても解けることが多かったので、ノート持ち込みはいいなと思いました。(3年)

テストへのノート持ち込み 生徒はどう感じた？②



裏面に続きます

○ノートを持ち込まなかった生徒の感想(主なもの)

- ・少し勉強不足だったので次にはもっと勉強したいです。(1年)
- ・予想よりも難しかった。(1年)
- ・かなり理解できたと思います(1年)
- ・まず基本からなっていないので、最初を復習してからあとをしっかりとやりたいです。(1年)
- ・とても難しかったです。次は時差について詳しく勉強したいです。(1年)
- ・もっと取れたと思いました。(2年)
- ・地理と歴史のミックスで、程よい手ごたえでした。特に、生産額の問題は難しかったです。(2年)
- ・ワークを勉強しないとなかなか解けないような問題が沢山あったので、もっと勉強したい。(2年)
- ・勉強法をもっと工夫したいと思った。(3年)
- ・ノートをしっかり準備したほうが自分のためにもなると思った。(3年)



偏食や食品ロスの改善を図るために

去る6月5日(月)から9日(金)にかけて、2年生の残食調査がありました。

給食センターによる残食調査

生徒の偏食をなくしたいということはもちろんですが、現代社会の課題である食品廃棄物や食品ロスの削減は、「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標の一つともなっています。世界の貧困地域で飢餓が発生している一方で、先進国では食べられる食品が大量に廃棄されているという現状を解消するために、食品ロスを自分ごとと捉えて行動する必要があるといえます。国が定めている「食品リサイクル法基本方針」においても、学校給食調理施設は、食品循環資源の再利用等を促進すべき施設と位置付けられているそうです。

この期間は、給食センターから栄養教諭の先生が来校し、2年生の給食の残食がどのくらいあるのかを確認していただきました。本校の2年生はほとんど残食がなく、大変ありがたいとお褒めのお言葉をいただきましたので、こうした意識を全校で継続していけたらと思います。



給食センターと連携した調査・授業が行われました

6月14日(水)、1年生の家庭科で、給食センターから栄養教諭の先生をお招きして特別授業を行いました。

この日の授業は、お弁当作りについてでしたが、先生からは、栄養バランスの大切さや献立を考える際のポイント、実際にお弁当箱に中身を詰めるときに気を付けること、衛生面の留意点など、多くのことを教えていただきました。説明の際には、2種類のお弁当の写真を比較させたり、お弁当箱のモデルを使ったりするなど、大変分かりやすくなるように工夫してくださっていました。



お弁当の最適なバランスは、「主食3・主菜1・副菜2」だそうです

授業で学んだ知識や体験を生活の中で活かすことができる「実践力」を育てることは、こうした食育においても大切なことであると思います。生徒にとって身近な素材であるお弁当作りを題材として、日頃から大仙市の子どものために給食の献立を考えてくださっている栄養教諭の先生から学んだことで、1年生のみんなも「自分ごと」として学ぶことができたようです。



専門家の視点で弁当作りを指導

家庭科で栄養教諭をお招きした特別授業